

名古屋大学エネルギーマネジメント研究・検討会，エネルギー問題研究会
平成18年度 エネルギーに関する文理融合研究合同成果報告会
第2回 名大発 - 省エネ推進と地球温暖化防止

地球温暖化防止のための京都議定書の第一約束期間(2008-2012年)を来年に控え、日本はその5年間で二酸化炭素など温室効果ガス排出量を1990年比6%削減することが義務付けられています。すでに企業や地方公共団体等では地球温暖化防止に向けた独自の取組を進めており、大学も決してこの例外ではありません。

名古屋大学では他大学に先行し、地球温暖化対策計画を策定し、エネルギー問題研究会およびエネルギーマネジメント研究・検討委員会を立ち上げ、積極的に学内における省エネルギー対策の実施に向けた検討を実施して参りました。2004年度からエコトピア科学研究所長(機構長)裁量研究経費を、また昨年度より総長裁量研究経費を受け、部局間の枠を超えた教員ならびに事務職員を交えた研究会を重ねることで、理系、文系、事務系のアイデアと経験を持ち寄り、実証データに立脚した省エネ対策の指針の策定と実施に努めて参りました。

今年で二回目を迎えたこの合同成果報告会では、エネルギー問題研究会およびエネルギーマネジメント研究・検討委員会で進めてきた研究の成果をご覧いただき、ご来場の皆様と議論を深める中で、名大発の地球温暖化対策を広く社会と共有し、そのあり方を共に考え、実践していく契機にしたいと考えております。

開催日：平成19年3月13日(火) 14:00 - 17:00

場所：名古屋大学経済学部第一講義室(空気攪拌ファンによる空調効率化プロジェクト実践場所)

【交通案内】地下鉄名城線名古屋大学駅1番出口 出て右正面建物からお入り下さい。

【プログラム】

進行：田中英紀

14:05 - 14:10 報告会開催にあたって

杉浦 康夫(施設整備担当理事・副総長)

14:15 - 16:20 研究成果報告：エネルギーマネジメント研究・検討会

「研究・検討会の活動状況について」

長谷川 達也(エコトピア科学研究所 教授)

「名古屋大学の東山・鶴舞地区のエネルギー消費実態

加藤 好孝(施設管理部施設管理課 課長)

とエネルギーマネジメントの近況について」

「学内省エネ推進における省エネ指標づくりのための分析」

渡辺 聡(経済学研究科)

林 希一郎(エコトピア科学研究所 助教授)

「省エネ行動促進のための介入手法検討」

元吉 忠寛(教育発達科学研究科 助手)

「大規模教室の空気攪拌による空調効率改善と省エネ効果」

藤丸 隆志(施設管理部施設管理課)

長谷川 達也(エコトピア科学研究所 教授)

三成 雅子(情報科学研究科)

《 休 憩 》10分

「人感センサを用いた照明・空調・換気連動制御の開発」

田中 英紀(施設計画推進室 助手)

「学生の行動を考慮した照明用電力消費の削減可能性評価」

加藤 丈佳(工学研究科 助教授)

「省エネテクニク：マルチ型エアコンの待機電力削減」

熊沢 正幸(全学技術センター 専門技術職員)

16:20 - 16:45 研究成果報告：エネルギー問題研究会

「研究会の活動状況について」

北川 邦行(エコトピア科学研究所 教授)

「LED照明装置の開発と基礎試験結果について」

北川 邦行(前出)

古賀 一男(エコトピア科学研究所 教授)

森 幸一(株東洋テクニカ 代表取締役)

松浪 有高(全学技術センター 技術員)

16:45 - 16:55 まとめ

荒山 裕行(経済学研究科 教授)

17:00 閉会の辞

山口 博行(施設管理部 部長)

《 情 報 交 換 会 》

17:20 - 挨拶

林 達也(全学技術センター統括技術長)